

第43回 横浜市地域まちづくり推進委員会 議事録

日時	平成30年10月29日（月）午前9時10分から12時30分まで
開催場所	鶴見市場地域ケアプラザ
出席者	委員：五十嵐委員、植松委員、奥村委員、小渡委員、杉崎委員、名和田委員、三輪委員、室田委員 幹事：見上副区長（栄区）、中川企画部長（建築局）
欠席者	鳥海市民協働推進部長（市民局） 田口政策調整部長（環境創造局）
開会形態	公開（傍聴なし）
議題	（1）公民連携による地域まちづくりの支援について
報告	（1）ヨコハマ市民まち普請事業について （2）横浜・人・まち・デザイン賞について （3）市民委員の募集について （4）地域まちづくりグループ登録数等の現状について （5）地域まちづくり事業助成金交付の状況について
現地視察	（1）鶴見区市場西中町まちづくり協議会 （2）松ヶ丘防災に強い町をつくる会
決定事項	特になし

議事

（1）公民連携による地域まちづくりの支援について

（事務局）＜議事1資料の説明＞

（名和田委員長）クラウドファンディング（以下、「CF」と略）による地域まちづくり団体の支援について、市はどのように関与するのか。

（事務局）市は企業の一定の安全性を確認したうえで、地域まちづくり団体にCF事業者を紹介する。CF事業者の活用の是非やCF事業者の選定は、地域まちづくり団体に委ねることになる。

（五十嵐委員）CF事業者はどのように選定したのか。

（事務局）共創フロントを活用して公募した。CF事業者からの提案内容が良ければ、地域まちづくり団体に提示したいと考えている。CF事業者のこれまでの実績や安全性は確認する。

（名和田委員長）以前、地域まちづくり推進委員会委員からも、まち普請はCFが適しているのではないかという発言があった。

（杉崎委員）なぜ横浜市とCF事業者が一緒にやるのか、市として関わり方が難しいのではないのか。

（事務局）地域まちづくり団体が直接CF事業者にアプローチするには、まだハードルが高いと考えている。市が間に入ることで、円滑に進むことができるのではないかと考えている。

（杉崎委員）CFは外にばかり目が向いてしまうが、地域内から資金・支援を集めることが大切なので、それも一緒にできる仕組みも考えてほしい。

（名和田委員長）CFは手数料が掛かるため、地域の人が直接、まち普請グループに資金提供できる仕組みをも検討すると良い。

（三輪委員）CF事業者の得意な分野・エリア等もあると思う。どのような支援が可能か整理をしたほうがいい。市としては、市民局のよこはま夢ファンドもあるので、広報の仕方を含め他局と連携して検討してほしい。

（奥村委員）市からのお墨付きがあるのは、CF事業者にとっては良いことだと思うが、市の関わり方がデリケートな部分があるので、十分に検討してほしい。地域によっては、協力者が特定できない方が良いこともあると思うので、CFは良い手法となるかもしれない。

（事務局）今後、CF事業者とのヒアリングを重ねて、具体的な進め方を検討していきたい。

（小渡委員）CFを活用した場合は、施設等を整備後に使用できないことがないように、市として特段のチェック機能が必要になると思う。

（室田副委員長）CFで地域外からのお金が入ってくると、地域での合意形成が丁寧になされなくなってしまう可能性がある。フリーライダー的にならないように市が関与することを検討してほしい。今までの地域まちづくりのいいところを残しながら、CFをできるといい。

(植松委員) 地域での活動なので、CFの出資者を優先し、地域が二の次になる事態は避けたい。
定期的に市と連絡・報告をするなど、風通し良くコミュニケーションがとれるといい。
(名和田委員長) 引き続き検討をしていただきたい。
(杉崎委員) まち普請部会でも、できるだけ早い段階で情報提供してほしい。
(事務局) 了解した。

資料	(1) 議事1 公民連携による地域まちづくりの支援について
----	-------------------------------